

高学年向けプラン：分け与える喜びと役割の多様性を学ぶ体験型授業

この授業プランは、高学年の児童を対象に、分け与える行動の社会的意義や役割の多様性、納税の価値と仕組みを体験的に学ぶことを目的としています。協力と競争のバランスを考え、社会の仕組みを深く理解することができる内容となっています。

授業のねらい

分け与える行動の社会的意義を深く理解する

協力によって得られる「みんなの幸福」と、自己の行動が社会に与える影響を体感します。

納税の価値と仕組みを体験的に学ぶ

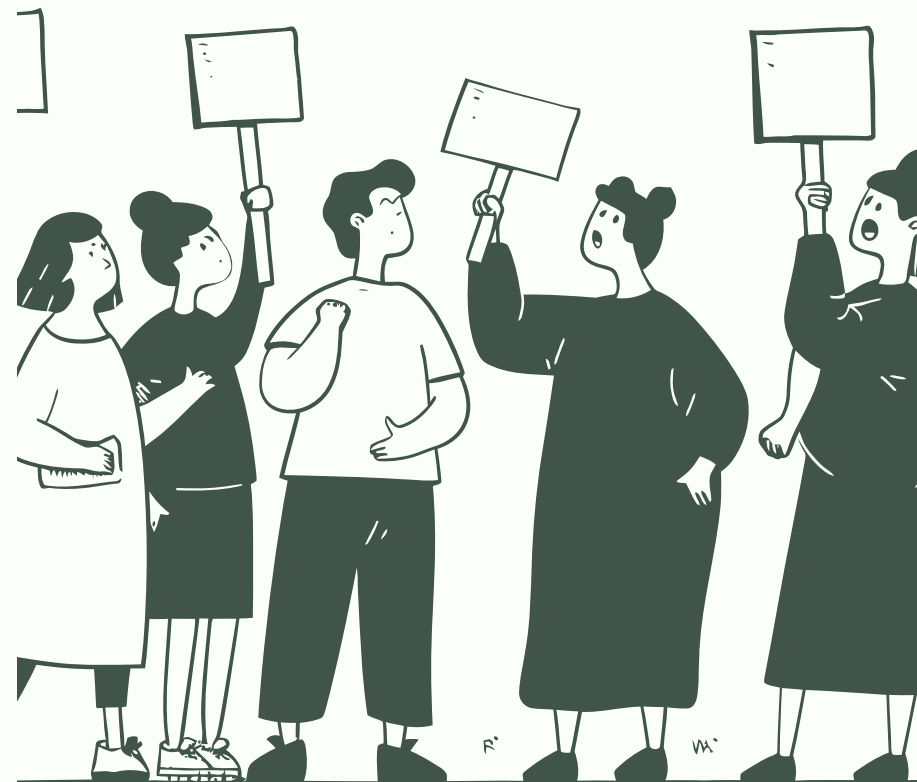
稼いだ成果の一部を手放す「葛藤」と、その結果社会全体が豊かになる「納得感」を実感します。

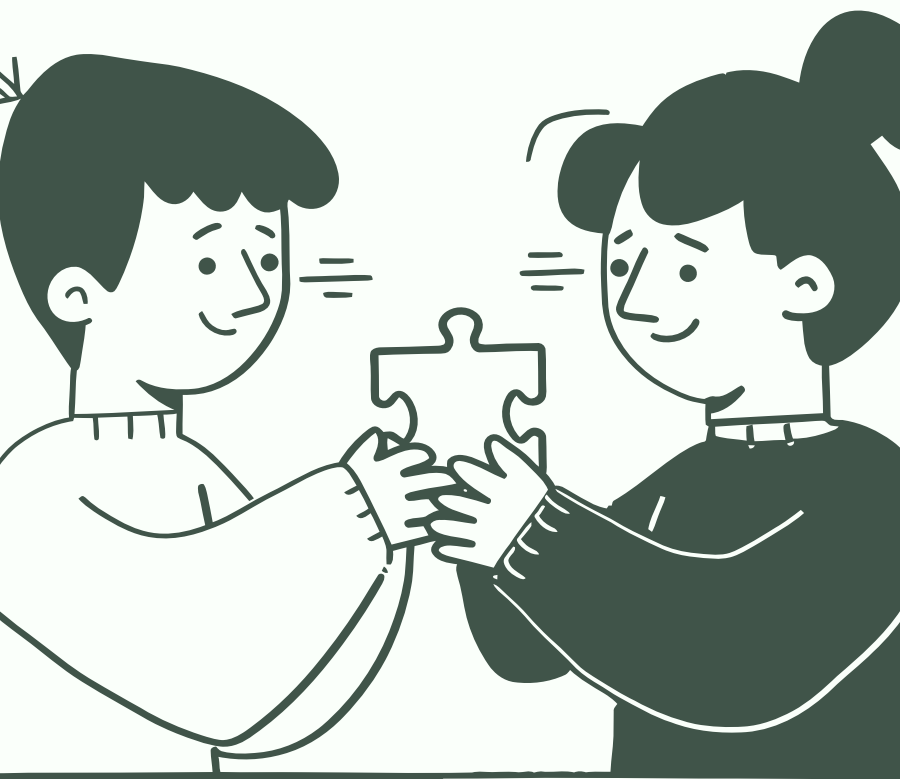
役割の多様性とその重要性を理解する

さまざまな役割が連携して初めて成果が生まれることを学び、自分の仕事の意義を見出します。

協力と競争のバランスを考える

個々の努力と全体の利益を調和させるための視点を養います。





授業概要：分け与える喜びと 社会の仕組みを学ぶ

目的

分け与える行動が社会全体にとって必要不可欠であることを学ぶとともに、役割の多様性を体験し、自分の役割の重要性を実感します。

授業内容



1

1コマ目（45分）：模擬仕事で役割分担と稼ぐ体験

子どもたちに「役割」を割り振り、それぞれが仕事を通じて模擬的なお金を稼ぎます。

- 役割例：畑でさつまいもを収穫する人、収穫物を洗う人、洗ったさつまいもを販売する人、広報ポスターを作成する人

それぞれの役割が連携しないと成果が得られないことを実感します。子どもたちは稼いだ金額を計算し、役割ごとに貢献を振り返ります。

2

2コマ目（45分）：納税と役割の再分配を体験

稼いだお金の半分を「税金」として収めます。「税金がなぜ必要なのか」をディスカッションします。

- テーマ例：「税金がないとどんな問題が起きる？」「みんなが納税しないと何が困る？」

集めた税金を使い、社会全体に還元（みんなが喜ぶものを購入）します。

- 例：購入したみかんやお菓子を全員で分け合い、喜びを体験する。

3

3コマ目（45分）：振り返りと気づきの共有

子どもたちに以下のテーマで感想を話し合ってもらいます。

- 「自分の役割はどうだったか？」
- 「税金を払うときどう感じたか？」
- 「分け合った結果、どんな気持ちになったか？」

先生が進行しながら、協力の大切さや役割の多様性、納税の意義を再確認します。

授業時間：合計135分（1コマ45分×3）。

狙い



仕事の役割が連携することで成果が生まれることを学ぶ

畑での収穫から販売まで、全ての工程が社会を支える一部であると理解します。



分け与えることで得られる「安心感と喜び」を実感する

葛藤を通じて納得感を深め、「みんなで協力すること」の価値を学びます。



納税が社会全体を支える仕組みであることを体験的に学ぶ

自分の行動が社会にどう影響するかを理解し、主体的に行動する力を育みます。



多様な視点から社会の仕組みを考える力を育む

自分の役割だけでなく、他者の役割や全体の成果への影響も考える視点を身につけます。



この授業で得られるもの

この授業を通じて、高学年の子どもたちは「協力と競争」「分け与える喜び」「役割の重要性」を深く体験的に学びます。未来の社会を担う彼らにとって、この学びは他者と共に生きる力や、社会全体の幸福を考えるきっかけとなるでしょう。

「自分の役割が誰かを支え、支えられる喜びが戻ってくる」——この実感を、ぜひ子どもたちに届けましょう！

授業の体験談はこちら

